



大会に挑んだ選手たち



北吉井小学校 6 年
しょうせい
小倉 正聖 選手

「緊張しました」。その一言で悔しさが伝わる。しかし北吉井小学校の代表として立派に走り切ったことを誇りたい。

川上小学校 6 年
ゆうせい
重松 勇成 選手

男子ソフトボール投げに出場した重松選手。決勝1組の1番目、トップバッターを務めあげ、緊張を楽しんだ。



南吉井小学校 6 年
さわと
武井 爽斗 選手

「リレー選手です。力になりたいので記録をつけています」。選手になり、頑張った練習の日々は、きっと力になる。



1_ 走り幅跳び 1 回目の跳躍に挑む塩見勇貴選手（南吉井小）／ 2_ 晴天に恵まれたニンジニアスタジアム／ 3_ ソフトボール投げ第 1 投目の大下綾太選手（川上小）／ 4_ 中元七海選手（北吉井小）。足を高く上げることを意識した／ 5_ 1 組 1 番目に登場した鶴原千織選手（南吉井小）／ 6_ 空中で大きく足を上げる永井陽南乃選手（拝志小）／ 7_ 声援に代わって拍手で応援の気持ちを伝えた

県陸、憧れの舞台

朝 から晴天に恵まれた当日。新型コロナウイルス感染症対策のため検温、マスク着用で開場された観客席には、子どもたちの活躍する姿を一目見ようと、保護者や関係者が集まった。

9 時 50 分、「今年は 2020 東京オリンピック・パラリンピックが開催された記念すべき年。オリンピックの皆さんは、制限のある中でも多くの記録と感動を見せてくれた。ここに集まった皆さんが持つ力を存分に発揮して素晴らしい大会になることを期待している」と大会役員が開会挨拶し、東温市からは 5 校 30 人が全種目に出場した。

約 900 人が参加し、陸上競技のタイムなどを競う第 34 回愛媛県小学校陸上運動記録会（県教育委員会・県小学校体育連盟主催）が 11 月 15 日、県総合運動公園ニンジニアスタジアムで行われた。子どもたちが 7 種の競技に分かれて競い合った会場は、“熱気”と“声援に代えた拍手”に包まれた。

県大会は、10 月に行われた市記録会での結果で上位入賞者が出場する（各競技に選手枠あり）。

走り幅跳びには 4 人が出場。塩見勇貴選手（南吉井小）、出末空澄選手（川上小）、下土井佐帆選手（北吉井小）、永井陽南乃選手（拝志小）が上位入賞を目指した。ソフトボール投げには重松勇成選手（川上小）、大下綾太選手（同校）、鶴原千織選手（南吉井小）、春藤琴音選手（北吉井小）が出場し、ニンジニアスタジアムの空の下、白球の遠投距離を競った。走り高跳びには 4 人が出場し、中脇遥哉選手（川上小）、松藤怜選手（上林小）、中元七海選手（北吉井小）、菅優月選手（拝志小）が出場。自己ベストを目指して跳躍した。

大舞台で自己ベストを更新した選手、思うような結果が出ずに悔しさが残った選手。小学生らしい緊張感でそれぞれの県陸の舞台を躍動した。



県大会記録 *Game Records*

60m ハードル男子	県2位：眞木翔大 9.25 秒
4 × 100m リレー男子	県2位：川上小（川田虎太郎、眞木翔大、黒澤蒼星、出末空澄、戸田伊吹） 53.60 秒

※上位入賞者の記録を掲載します。

1_ コーナーを駆けける川田虎太郎選手（川上小・赤）／2_ 県内の小学生が集まり自己ベストに挑戦した／3_ ハードルを飛び越える東本すみれ選手（北吉井小）／4_ 木阪菜々美選手（南吉井小・中央黒）。大舞台での力走が光った／5_ 腕を振り自己ベストを目指した藤原一葉選手（川上小）／6_ 中川志穂選手（南吉井小）がバトントスの声をかける／7.8_ 菅優月選手（拝志小・紫）と下土井佐帆選手（北吉井小・青）。各学校を背負い疾走した／9_ 南吉井小学校選手団。憧れの舞台で絆を深めた



大会に挑んだ選手たち



川上小学校 選手団

それぞれの選手の個性が光った川上小学校選手団。常に明るいチーム。空気を読むことも必要だが、“空気を創る”ことの大切さが伝わった。



拝志小学校 選手団

女子メンバー6人で挑んだ県陸。各学年1クラスで、普段から団結力があ

る。最後は全員でポーズ。これからどんな活躍を見せてくれるだろう。

場した川上小チームだ。静まる会場。観客の視線が集まる中、スターターピストルが響いた。と同時に、第1走者川田選手がバランスを崩す。あと数センチ前のめりであれば転倒するところ。しかし第2走者の眞木選手は動じなかった。「川田くんならいける」。信じてバトンを待った。地面を蹴る音が近づく。白いマーカーキングテープを踏んだ瞬間、眞木選手がスタートを切った。第3、4走者ともにスピードが落ちることなく、振り向かずバトンを受け取り、1位でゴールラインを切った。川上小チームは2位と0.17秒差、総合順位でも県2位の成績を収めた。

運動能力の向上をはじめ、子どもたちの健全な成長は学校、家庭だけでは叶わない。地域に住む私たちにできることはなんだろう。

身近な公園で体を動かし、ボール遊びを楽しむ環境を整える、遊んでいる場所を温かく見守る。小さな見守り活動がやがて大きな力となり、子どもたちが自ら成長する地域環境が創られるのではないだろうか。

トラック競技は60mハードル、60m走、100m走、400mリレーの4種目が行われた。（以下出場選手…60mハードル：黒澤蒼星（川上小）、眞木翔大（同校）、東本すみれ（北吉井小）、岩川愛実（同校）▼60m走：小倉正聖（北吉井小）、森実晏（南吉井小）、濱田音々（拝志小）、藤原一葉（川上小）▼100m走：石本龍平（南吉井小）、村上晴（北吉井小）、原田結衣（拝志小）、木阪菜々美（南吉井小）

午後から行われた400mリレーには、川上小（男子…川田虎太郎、眞木翔大、黒澤蒼星、出末空澄、戸田伊吹）、南吉井小（男子…中川志穂、塩見勇貴、石本龍平、森実晏、武井爽斗）、拝志小（女子…池本朱莉、永井陽南乃、菅優月、原田結衣、濱田美々）、北吉井小（春藤琴音、岩川愛実、下土井佐帆、東本すみれ、中元七海）が出場し、仲間とバトンをつないでトラックを疾走した。

「僕たちは1位になる」。強い言葉を残して集合場所へ向かったのは4組5レーンで出